



プロジェクト名 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（文科省）

管理機関：静岡県教育委員会
地域協働推進校：静岡県立熱海高等学校

プロジェクトの趣旨・目的（文科省）
高等学校と市町村、大学、産業界等が協働して①コンソーシアムを構築し、高等学校における②地域課題の解決等の探究的な学びを通して、③未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付けることともに、地域への課題意識や貢献意識をもち、将来、④地域で地域ならではの新しい価値を創造し、新たな時代を地域から分厚く支えることのできる人材（地域人材）の育成を図ることとする。

I 研究開発構想名
「外部資源を有効に活用した、地域を担う『人材』の育成～地域に育ち、地域に育ててもらふキャリア教育～」
II 研究開発の概要
地元企業、自治体（熱海市）、熱海伊東法人会、小中学校等と連携・協働することにより、地域課題の解決等の探究的な学びを通して、地域への課題意識や貢献意識を持ち、地域を担う『人材』の育成を図る。
III 研究の目的
全国平均27.7%の高齢化率に対し、47%の熱海市は少子高齢化に伴う人口減少等、現代社会の諸課題を先取りしている地域であり、本校はこうした課題を抱える熱海市に所在する唯一の高等学校である。そこで、総合的な探究の時間や各教科等における教科横断的探究活動を通して、将来の日本の地域社会を先取りした熱海市の課題を自分のこととして捉え、地域と協働することによりその解決方法を自立的に探り、さらに熱海ならではの新たな価値の創造を目指す人材を育成することを目的とする。

④どんな地域人材を育成するのか？＝熱海人（あたまんちゅ）

①「課題先進地域」 2050年の日本の地方都市「熱海」が抱える課題を「自分事」としてリアルに考え、	②どんなに困難な課題であってもあきらめずじがみ付き、	③高校生の特権である正義と公正と理想を武器にひるむことなく大人と渡り合い、
④現実に直面し、くじけそうになっても、仲間と協力し新たなアプローチを考え出し、	⑤見返りを求めず、地域住民の喜ぶ顔を見て良かったと思ひ、	⑥たとえ、熱海でないとこかであっても同様にその地域の抱える課題に立ち向かい、地域のために貢献できる人材

③未来を切り拓くために必要な資質・能力 ⇒ 熱海高校で育成する3つの能力

探究力

- 読解力、文章表現力、数的処理能力
- 価値の創造、好奇心、知識欲、解決欲求
- 表現力、思考力、判断力

主体性

- リーダーシップ、自発的、自主的、積極性、自律性、やり抜く力
- 企画力、創造力、提案力

協調性

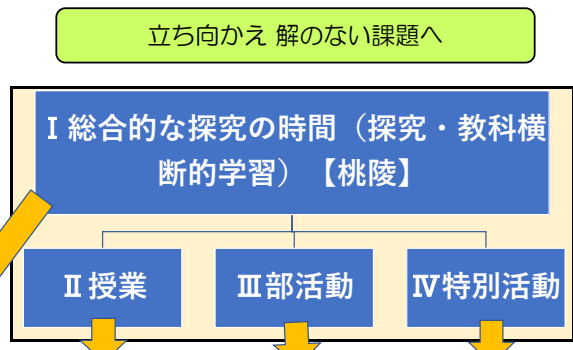
- コミュニケーション能力、共感性、チーム志向、敬愛、協力
- フォロワーシップ、多様性、寛容、受容

<本校の教育方針>

- 自発的に学習し、自主的に判断し、自律的に行動できる人間の育成
- 民主的な社会の形成者として、敬愛と協力の精神を持ち、誠実に生き、かつ働く健康な人間の育成
- 故郷を大切にし、将来にわたり地域を支える人間の育成



②「地域課題の解決等の探究的な学び」を進める方法



I 総合的な探究の時間（桃陵）

- 地域課題のテーマ設定、解決方法
 - 「観光」観光と地場産業
 - 「福祉」高齢化、バリアフリー
 - 「防災」津波対策
 - 「国際交流」外国人労働者
 - 「エネルギー資源」温泉活用
- 企業、自治体と協働し企業が求める人材の考察を通し、将来の生き方を考える。

現在の熱海

年少人口 3%

生産年齢人口 50%

高齢人口 47%

30代未婚率全国ワースト1位 48.5%

生活保護者率 1.67 静岡県ワースト2位

空家率 50.7% 静岡県ワースト1位

II 授業での取組例

商業	高校生ホテル、ツアープラン、商品開発、実習、起業家育成プロジェクト
福祉	多賀小との交流、実習、介護食の開発
英語	観光チラシの作成、街頭インタビュー対策
国語	効果的なインタビュー、プレゼン方法
社会	熱海の史跡（神社等の歴史）
理科	熱海のジオ
家庭	熱海特産品の調理法開発
保体	健康増進（温泉の効用）
数学	データ分析等

III 部活動での取組

- エイサー部、ボランティア部
 - 地元施設訪問、イベントでの発表、手伝い等の地域貢献、異校種交流
- 運動部
 - 地元祭りへの参加
- 報道部
 - 企業とコラボした広報誌作成

IV 特別活動

- 熱海市2030会議参加、子ども食堂開催
- 社会人講話

ふりがな 管理機関名	しずおかけんきょういくいんかい 静岡県教育委員会	ふりがな 学校名	しずおかけんりつ あたみこうとうがっこう 静岡県立熱海高等学校
---------------	-----------------------------	-------------	------------------------------------

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 実施体制の概要

1 管理機関・学校の概要

(1) 管理機関名、代表者名

管理機関名：静岡県教育委員会

代表者名：木苗 直秀

(2) 学校名、校長名、研究を実施する学科

学校名：静岡県立熱海高等学校

学科：普通科 専門学科 総合学科

校長名：石田 金也

2 取組内容

＜先進的な地域課題研究等の実績＞

熱海市唯一の高等学校である本校には、地域の未来を担う人材の育成、輩出が期待されているが、熱海市近隣を含め地元で就業する卒業生はそれほど多くない。そこで本校では、地域に対する課題意識や貢献意識を高めるために、「地域社会の課題の一端を知り、その原因を探る方法や、解決しようとする姿勢を身に付ける」ことを目的とし、平成29年度より1年次において総合的な学習（探究）の時間「探究」を活用し、「熱海市が抱える諸問題に対し課題解決のために高校生が何ができるのか？」について熱海市役所の関係所管課と協働し取り組んだ。

平成30年度には2年次において、「地元自治体や企業とともに高校生が何ができるかを体験し、自ら考え行動する力を養う」ことを目的とし地元企業の人たちと、「これからの熱海市と高校生」、「商品の価値を生み出す方法」、「企業の求める人材」等についてトークセッションを行うとともに、地元企業や市役所においてフィールドワークを行い、実践成果を提言という形で発表した。また、観光ビジネス類型では熱海伊東法人会青年部と協働し、「起業家育成プロジェクト」に取り組み、地元企業の経営者と「起業するために必要なこと」について協議した。さらに福祉類型では「福祉のまちづくりと地域社会の将来を見据えた専門的福祉従事者の育成」をテーマに熱海市役所、福祉事務所、熱海市社会福祉協議会等と協働することにより、介護食商品開発プロジェクトに取り組んでいる。

＜地域人材育成に資する発展的実践内容＞

こうした実績をさらに発展させ本校では本事業において、下記に示す実践内容に取り組む。

【総合的な探究の時間】

・1年次 15時間/年

「地域課題探究活動Ⅰ（『熱高ラボ』）地域社会の課題の一端を知り、その原因を探る方法や、解決しようとする姿勢を身に付ける探究活動」「職業インタビュー」

・2年次 10時間/年

「地域課題探究活動Ⅱ（『熱海ラボ』）地元自治体や企業と協働し、企業が求める人材の考察を通し、将来の生き方を考える探究活動」「全員インターンシップ」

・3年次 10時間/年

「地域課題探究活動Ⅲ（地域の活性化につながるキャリア教育、トークセッション等）」

【授業】「各教科の特性に応じて3～15時間程度/年」

【部活動】エイサー部、ボランティア部による施設訪問、異校種間交流、イベント参加／報道部による企業とコラボした広報誌作成／運動部による地域貢献

【特別活動】熱海市2030会議参加／子ども食堂開催、社会人講話

3 管理・運営方法

(1) 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者名
静岡県立熱海高等学校（コンソーシアム代表機関）	校長 石田 金也
熱海市役所	産業振興室 室長 長谷川 智志
熱海伊東法人会青年部	タケヒラトヨー株式会社 代表取締役 竹平太郎
FIREBUG	P-NEWS Dept. コンテンツチーフプロデューサー

	水野 綾子
熱海市立多賀小学校・多賀中学校	校長 戸田 太郎・校長 内藤 弘美
地元企業 熱海ガス、フジノネ他	各企業代表
伊豆半島ジオパーク推進協議会	ガイド担当 小野 英樹

(2) 将来の地域ビジョン・求める人材像等の共有方法

すでに、実施している行政、産業界との連携・協働をさらに有機的に繋げ、本構想の趣旨、求める地域人材像、取組・評価等の具体について共有するために、校内に地域連携推進委員会を設置し共有を図る。

(3) コンソーシアムにおける研究開発体制

本校を中心に、熱海市役所、熱海伊東法人会青年部、多賀小・中学校、地元企業等と地域協働を積極的に進める。

(4) カリキュラム開発等専門家（地域魅力化型・プロフェッショナル型）、海外交流アドバイザー（グローバル型）の指定及び配置計画

人口減少等により地域の社会的共通資本が衰退している地域に入り、地域を維持する観点から様々な取組をしている静岡文化芸術大学の船戸修一准教授をカリキュラム開発等専門家として指定した。地域と学校の双方の視点を踏まえ、主体的に当該プロジェクトの取組内容を指導するよう依頼済みである。

(5) 地域協働学習実施支援員の指定及び配置計画

すでに本校の総合的な学習（探究）の時間において実施している教育活動「熱高ラボ」、「熱海ラボ」において外部機関との調整や探究的な学習活動のファシリテーターに係る業務を担当している、FIREBUG P-NEWS Dept. コンテンツチーフアドバイザー 水野 綾子 氏を地域協働学習実施支援員として迎え、本プロジェクトを進めていく。

(6) 運営指導委員会の体制

専門区分	所属・氏名
学校教育	静岡大学大学院教育学研究科教授 武井敦史
学識経験者	静岡大学地域創造学環教授 伊藤文彦
関係行政機関の職員	静岡県東部地域局長 望月宏明
民間企業	株式会社なすび専務取締役 藤田尚徳
NPO	静岡市清水区の街おこしNPO代表 鍋倉伸子
産業界	静岡産業大学総合研究所参与 杉雅俊

(7) 研究成果報告・事業成果の検証に向けた計画

毎年1回、成果発表会を実施し、地域自治体、産業界、学校等に対し取組内容や成果を発表する。事業成果の検証については、本校に設置される地域連携推進委員会においてPDCAサイクルに基づき、取組内容について検証する。また本プロジェクトを通し生徒に育みたい能力（探究力・主体性・協調性）を評価するため、評価に係る専門家の指導の下、生徒の変容を確認する。

(8) 管理機関又はコンソーシアムによる主体的な取組・支援

管理機関及び運営指導委員会の指導の下、本校と連携・協働を進めている熱海市役所、熱海伊東法人会青年部・地元企業、地元小中学校等と一層協議・協働を進める。

(9) 事業終了後の継続的な取組の実施に向けた計画

本プロジェクト以前より本校は地域連携・協働を進めており事業終了後に関してもコンソーシアムによる取組を継続する。

2019年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	しずおかけりつあたまこうとうがっこう				②所在都道府県	静岡県
2019～2021	①学校名	静岡県立熱海高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	普通科 1学年3クラス 全9クラス	
普通科	96	66	91	0	253		
⑥研究開発構想名	外部資源を有効に活用した、地域を担う「人財」の育成 ～地域に育ち、地域に育ててもらおうキャリア教育～						
⑦研究開発の概要	地元企業、自治体（熱海市）、法人会、小中学校等と連携・協働した、地域課題解決のための探究的な学び等を通して、地域に対する課題意識や貢献意識を育み、地域を担う「人財」の育成を図る。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1 全体	<p>(1) 目的・目標 全国平均 27.7%の高齢化率に対し、44.7%の熱海市は少子高齢化に伴う人口減少等、将来の日本の地域社会の諸課題を先取りしている地域であり、本校はこうした課題を抱える熱海市に所在する唯一の高等学校である。そこで、熱海市の課題を我がこととして捉え、教科横断的探究活動等を通して、地域と協働することにより、その解決方法を自律的に探り、さらに熱海ならではの新たな価値の創造を目指す人材を育成することを目的とする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 本校は熱海市に所在する唯一の高校であることから、地域の将来を担う人材の育成・輩出が期待されているが、地元で就業する生徒はそれほど多いとは言えない。そこで地元企業、自治体（熱海市）、熱海伊東法人会、小中学校、伊豆半島ジオパーク推進協議会等と連携・協働することにより、地元への課題意識や貢献意識を高め、その結果、地元で就職する又は将来的に地元に戻る意志のある生徒の割合が高まり、地域活性化に寄与することが期待できる。</p>					
	⑧-2 具体的内容	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>【総合的な探究の時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次 15時間/年 「地域課題探究活動Ⅰ（『熱高ラボ』）地域社会の課題の一端を知り、その原因を探る方法や、解決しようとする姿勢を身に付ける探究活動」「職業インタビュー」 ・2年次 15時間/年 「地域課題探究活動Ⅱ（『熱海ラボ』）地元自治体や企業と協働し、企業が求める人材の考察を通し、将来の生き方を考える探究活動」「全員インターンシップ」 ・3年次 10時間/年 「地域課題探究活動Ⅲ（地域の活性化につながるキャリア教育、トークセッション等）」 <p>【授業】「各教科の特性に応じて3～15時間程度/年」</p> <p>【部活動】エイサー部、ボランティア部による施設訪問、異校種間交流、イベント参加 ／報道部による企業とコラボした広報誌作成／運動部による地域貢献</p> <p>【特別活動】ATAMI2030 会議参加／子ども食堂開催、社会人講話</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制 コンソーシアム連携委員会、校内地域連携推進委員会を置く。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 なし</p>					

⑨その他
特記事項

本校ではすでに総合的な学習の時間、観光ビジネス類型、福祉類型、部活動、生徒会活動等において地域連携を進めている。(例)「高校生ホテル」、地域施設訪問、「子ども食堂」等

本事業では、こうしたこれまでの取組をさらに改善するとともに、「各教科における授業」「部活動」「特別活動」といった場面も活用しさらに地域連携を深めていく。